

The project of Art and Performance to next-gen
公益財団法人 中條文化振興財団助成事業 2024.4.~2025.3.

THE RESEARCH FOR 戯作家・演出家 仙石 桂子と美術作家 千田 豊実の演劇作品 「記憶のしらべ〜戦争 記憶を次世代へ伝える ための表現を探る〜」

仙石 桂子 Keiko Sengoku

四国学院大学社会学部身体表現と舞台芸術マネジメント・メジャー准教授。

劇団オムツかぶれ、即興演劇シリーズ主宰。

2006年より一橋大学学生相談室勤務、2010年よりタイのシラチャ日本人学校国語科専任教諭を経て、2012年より現職。専門は、演劇教育とインプロ（即興演劇）。現在、小学校・高校、美術館や社会福祉施設、市民向けのワークショップや、丸亀少女の家等、矯正教育の分野でも演劇教育を実践している。2014年より長編・短編の劇作・演出を手掛け、毎回異なる市民と学生、プロの俳優によるチームを結成して共同制作を行い、年に2本ずつ公演を行ってきた。「生きづらさ」や「家族」をテーマにポップで、ユーモア溢れる、かつ現実的な演劇を特徴とする。さらに「即興演劇シリーズ」を主宰し定期的に善通寺市内の飲食店や商店等でインプロ公演を定期開催するなど、劇場内外での公演を通して、地域の人々との交流や演劇文化の拡充に努めている。2021年より、美術作家千田豊実とのコラボをスタート。絵画作品を舞台美術に取り入れたり、千田の絵画作品を見て仙石が戯曲を書き下ろす、または仙石の演劇を見て千田が制作する等といったコラボレーションに挑戦している。著書に『ドラマ教育入門』（図書文化社 共著）

千田 豊実 Toyomi Senda

美術作家。Senda Atelier 主宰。

東京、ベルリンを拠点に作家活動を始め、2009年に香川県に帰郷し作家活動を続ける。2009年よりシベリア抑留の体験を絵にした祖父川田一一（かずいち）と二人展を開催。2013年 Senda Atelier を創立、幼児・小中高校生から大人を対象とした絵画造形教室を主宰。外部講師として小中学校や障害者福祉施設でのワークショップも行っている。2005年から一貫して「日常の自然の移り変わりや繊細に流れ動く人の感情」をテーマに制作している。目に見えない空気、音、重力、感情を、純粋な線や形、色の重なりといった単純な描写で可視化し、それらを何度も重ね複雑にすることで、見えない時間が流れているような現象的な空間を絵画やインスタレーションで表現できるよう追究している。シベリア抑留体験を絵にしてきた祖父との二人展を企画し、2012年に祖父が他界してからも同じ経験をされた方々の取材や関連資料等を参考に「シベリアシリーズ」を制作、ライフワークにしている。2021年からは、仙石桂子の演劇との共同制作をはじめ、数年前からは異なるジャンルとのコラボレーションや、地域活性化のイベントにてアートワークの監修にも挑戦している。 <https://sendatoyomi.com>

仙石桂子と千田豊実で立ち上げた [Art and Performance to next-gen] では、2025 年秋頃の公演を目標に「シベリア抑留を絵に遺した祖父と祖父の抑留体験を絵にした孫」をテーマとした 演劇作品に挑戦いたします。

この作品の制作にあたって、香川近代史研究会の方や元抑留者や満蒙開拓団のインタビュアー、NPO 法人 舞鶴・引揚語りの会の方をお招きし、計 4 回の座談会を開催いたします。演劇作品に携わる俳優、スタッフ、学生さん、一般の方と次世代に伝えたい戦争記憶について考える機会になればと思います。

- 2024 年 5 月 25 日 (土) 18:00~19:30 第 1 回 香川近代史研究会 森広幸 氏「善通寺俘虜収容所について」
9 月 28 日 (土) 18:00~19:30 第 2 回 満蒙開拓団インタビュアー 西岡秀子 氏「香川満蒙開拓について」
11 月 23 日 (土) 18:00~19:30 第 3 回 NPO 法人 舞鶴・引揚語りの会 宮本光彦 氏「シベリア抑留」
2025 年 2 月 22 日 (土) 18:00~19:30 第 4 回 西岡秀子 氏「父が遺したシベリア短歌について」

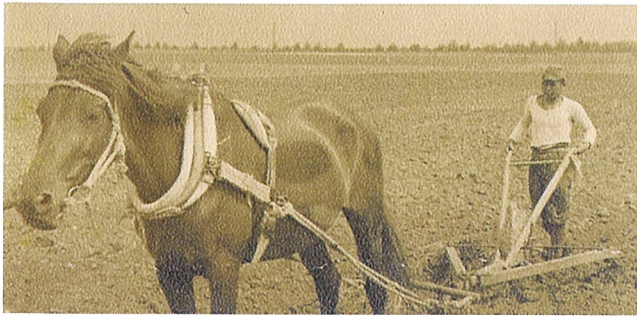
場 所： 劇団オムツかぶれ「GALLERY What's new?」 香川県善通寺市金蔵寺町 662-5

***善通寺 IC から車で約 3 分 *駐車場は会場南側です。**

***入り口に大きなキリンがいる岡山富男さんのアトリエギャラリーです。**

定 員： 先着 15 名 ***事前申し込み制** 参加ご希望の会、お名前、ご連絡先をご記入の上、
info@sendatoyomi.com までお送りください。

入場料： 無 料



川田一 かわだかずいち

1925年(T14)香川県さぬき市生まれ。香川県立木田農業学校卒業後、1943年(S18)南満州鉄道株式会社殖産部に配属され、フルキ農業修練所入営。農業技師として働く。1945年(S20)2月召集され、鞍山高射砲隊に入隊。終戦後、鞍山から奉天に集結し武装解除。ソ連軍により貨車に乗せられ北西へ。1945年(S20)10月からカザフスタンのアクモリンスク(現アスタナ)に2年間、その後カラガンダに移送され1年間、そして1948年(S23)11月にナホトカにある収容所に引き渡され、引き揚げ船「遠州丸」でナホトカ港から舞鶴港に同年12月3日に上陸した。

帰郷後結婚し、農業や畜産業で生計を立て、三人の娘を授かる。70歳を過ぎた頃、肺を患い「元気なうちに抑留の実態を伝えなければ。」と幼い頃から好きだった絵を描き始める。以後、地元で個展を3回開催し、県内グループ展に出品。それまでは、ほとんど公開してこなかった抑留シリーズは、2009年(H21)の祖父と孫の二人展で初めて発表した。

2012年(H24)10月10日、間質性肺炎のため世界。



「仲間たち-ダモイ」 91×116.7cm



「捕虜収容所」 38×45.5cm



「異国の丘-月照」 91×116.7cm



「帰雁」 91×116.7cm



「歓喜舞鶴I」 45.5×53cm



「遺骨収集団」(遺作) 60.6×72.7cm

シベリア抑留：第二次世界大戦終戦後、当時「満洲」(中国東北部)、北朝鮮、南樺太(サハリン)にいた日本軍兵士らが、ソ連軍捕虜になり武装解除され、ソ連領各地の収容所に移送され、過酷な強制労働を強いられた。送られた軍人らは約60万人、寒さと飢え、劣悪な環境の中での労働で、約1割の6万人以上が亡くなった。



Senda Atelier
sendatoyomi.com

美術作家 千田豊実のアトリエ、シベリア抑留の記憶を絵に残した亡き祖父 川田一一の作品をご覧いただけます。
おとな絵画教室・こども絵画造形教室も行っています。アトリエへお越しの際は必ずご連絡ください。

TEL: 0879-49-1330 E-MAIL: info@sendatoyomi.com



シベリアに残された抑留仲間のことを忘れてほしい
そのためには

過酷な抑留生活の記憶や仲間への想いを

絵にして残すこと

それが生きて帰ってきた私の役目かもしれない

そう信じて

70歳から絵を描き始め87歳までの17年間